



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	月刊DRF 第27号
Author(s)	デジタルリポジトリ連合
Description	事務局：北海道大学附属図書館 http://drf.lib.hokudai.ac.jp/ で公開したもの
Issue Date	2012-04-02
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/73542
Type	journal
File Information	DRFmonthly_27.pdf





月刊 DRF

Digital Repository Federation Monthly

第27号

No. 27
April, 2012

【特集1】英国RSP・UKCoRRと友好協力関係に
【特集2】ワークショップ・講演会レポート in 2012
＜トピックス＞速報！DRF2012研修・イベントラインナップ

ほかー
DRF参加機関紹介
「信州共同リポジトリ」
WGメンバー募集

特集1

英国RSP・UKCoRRと友好協力関係に

英国RSP(リポジトリ・サポートプロジェクト)のジャッキー・ウィッカム氏の来日(1月(本紙2月号参照))をきっかけに、平成24年3月1日、デジタルリポジトリ連合と、同プロジェクト及びUKCoRR(英国研究リポジトリ委員会)は、以下を骨子とする協力覚書を交わしました。



DRF、RSP、UKCoRRによる了解覚書(抄)～本覚書の範囲～

1. 機関リポジトリ構築に係る人材養成における知見と経験の共有
2. 機関リポジトリ構築をテーマとした集会の共催や相互参加



こんなに似ているDRFとRSP

英国でも、我が国同様に集会や研修を通じて機関リポジトリ担当者の交流が盛んに行われています。情報共有の手法は、左右の写真に見られるように互いに非常に似通っており、また、DRFとRSPの活動状況そのものも共通点が多くあります。今後の関係構築の第一歩として、7月に英国エジンバラで開催されるOpen Repositories 2012への出展を予定しています。知見と経験の共有を通じ、両国の機関リポジトリのますますの発展を目指しましょう。

DRF		RSP
2006.9	活動開始	2006.11
41回	集会開催	46回
CSI委託	資金	JISC助成



上田企画WG主査 & ジャッキーさん@RSP

速報

DRF2012 研修・イベントラインナップ

2012年度も引き続き、DRF主催の研修・イベントを行います。
皆さんのスケジュールに追加してくださいね！日程は決まり次第お知らせします。
多数のご参加をお待ちしています。

ことしも
やります

- ・新任担当者研修(東日本会場・西日本会場)
- ・中堅担当者研修
- ・地域ワークショップ(全国数力所で開催)
- ・全国ワークショップ(図書館総合展)
- ・主題ワークショップ
- ・課題別ワークショップ

夏～秋

秋

夏～



ワークショップ・講演会 レポート in 2012

2012年1～3月、全国各地でワークショップや講演会が開催されました。その様子をみなさんにレポートしていただきます。



神戸市外国語大学リポジトリワークショップ

平成24年1月20日（金） 神戸市外国語大学 三木記念会館

講師の兵庫教育大学の永井一樹氏からは機関リポジトリの説明と、なぜ図書館がリポジトリを運用するのかについて多方面からの分析がありました。聖学院大学の菊池美紀氏からはSERVEの事例紹介があり、業務量は増えたが、楽しんで仕事をしている様子や、役に立つ喜びにつながるといった報告がありました。また、神戸市外国語大学は「IRがなくて困った事例」の寸劇や研究室訪問の応対を紹介しました。IRの導入は、研究成果の提供や複写制限の解消などのメリットのほか、図書館内だけの業務を大学全体で関わっていくきっかけにもなります。IRを担当者だけでなく、大学全体で取り組む開かれた事業にすることが私たち図書館職員の願いです。（神戸市外大 須浦・谷本）



IR懷疑派の先生を訪問

ガイダンスで困った

図：国内で発行された雑誌が検索できるCiNiiというデータベースです。検索結果にあるオレンジのボタンをクリックしてみてください。

学：すごい、中身までみられるんですね。

図：そうですね。論文入手の手間が一気に省略できます。

学：すごく便利です。あれ、どうして最近の外大論叢の論文にはオレンジのボタンがないんですか？

図：うっ。。。

（図書館員かたる）

図：最近の外大論叢もCiNiiで本文がみられるように図書館で準備を進めているところです。もう少しだけ待ってくださいね。

学：分かりました。

OAWで困った

教：私の論文をオープンアクセスにするにはどうしたらいいですか？

図：（三角スタンドの説明と一緒に読みながら）主に2つの方法があります。1つは無料公開のEJに発表する。2つ目は大学などのウェブサイトで公開する方法です。

多くの大学では、2つ目の方法を実現するために、機関リポジトリを構築していますが、神戸外大にはまだなくて、今まさにその準備をしているところです。

教：じゃあ、今は神戸外大ではできないんですね。

図：申し訳ないですが、しばらくお待ちいただけますか？本学でもOAの実現に向けてがんばります。

教：分かりました。がんばってください。

こういうケース、
あなたならどう対話しますか？

図：機関リポジトリに登録した論文はCiNiiやGoogleからも検索できるので、多くの人に先生の研究を伝えることができますよ。

教：インターネットで勝手に公開されるのはあまり気分のいいものではないですね。

図：はい…。では、きちんと公開の許可を取った論文ではいかがですか？

教：インターネットで簡単に取り寄せようというのはあまり感心しませんね。私の専門分野は、現物を確認するのが大前提なんです。

図：そうですね…。

教：それに剽窃の懸念もあるでしょう。私の書いた論文を勝手に切り貼りされたくないですからね。

図：確かに剽窃は問題ですね。インターネットに公開する論文でもファイルのテキストを編集できないように設定すれば、コピーは防止できますよ。

教：いやあ、でも遠慮したいですね。リポジトリというのは必ず協力しないといけなのですか？

図：いえ、先生ご自身が公開されたいと思われる論文の提供をお願いしています。

教：そうですか、それなら安心しました。

図：今日はどうもありがとうございました。

教：はいはい。（素っ気なく）

※神戸市外国語大学作成の脚本より抜粋。
誌面の都合上一部表現を改変しています。
※図：図書館員、学：学生、教：教員



平成23年度 愛媛大学図書館学術講演会

平成24年1月23日（月） 愛媛大学図書館



愛媛大学図書館では、毎年図書館活動の活性化と職員のスキルアップを図るべく学術講演会が開催されています。25回目となる今回はDRFから講師を派遣し、第1部『著作権と機関リポジトリ』をテーマとする学術講演と、第2部『機関リポジトリと著作権—著作権実習』が行われました。第1部では、千葉大学・森一郎氏により、機関リポジトリ運用にあたっての著作権処理の問題等について、第2部では、神戸大学・末田真樹子氏により、iPadやノートパソコンを使用する検索や具体例のQ&Aを交えるなどして、今後著作権処理を担当する職員に有意義な実習が行われました。今回の学術講演会には、県内7機関の図書館職員や著作権に係わる業務を担当する職員、機関リポジトリ・著作権等に興味を持つ教員等計35人が参加しました。



受講生の1人として参加し、preprintとpostprintについて自分が勘違いしていたことに気づきました。また、公開条件を実現する具体的方法について疑問に感じていたことも教えていただき、大変勉強になりました。講師のお二人とDRFのご協力にお礼申し上げます。

レポーター：宮部（愛媛大）



研究者と論文とを結びつけるために～研究者IDサミット2～

平成24年2月14日(火) 大阪市立大学 学術情報総合センター



今年度の金沢大学の識別子プロジェクトは、さらなる裾野の拡大を狙い、5大学(北海道大学、関西学院大学、奈良女子大学、大阪市立大学、長崎大学)が実証実験に参加、著者IDの実装を行いました。その報告と著者IDのディスカッションのワークショップが、2月14日(火)に大阪市立大学で開催され、37名が参加(前年比1.4倍)しました。ディスカッションでは、各大学の研究者DBとの連携の現状や、研究者にとっての利点が報告され著者IDの重要性を共有するとともに、管理方法や体系などの課題も明らかになるなど、活発な議論が交わされました。



大阪市大は1月に著者IDをJAIROに送ることができました。JAIRO上で、著者名をクリックすると瞬間に著者IDで検索、論文がずらりと並びます。「気分爽快！」大ジョッキで乾杯したい気分ですね。研究者リゾルバーの薄緑のアイコンはデザインも格好良く、所属の著者DBや世界の著者IDとつながっていく機能です。この著者IDが様々なソフトに実装され、機関リポジトリの標準装備になってほしいと思っています。多くの大学や業者の皆様、ご来場いただき、本当にありがとうございました。専用HPも見てくださいね。

レポーター: 中村(大阪市立大)



平成23年度公立大学協会図書館協議会近畿地区協議会講演会 「学術知識の流通とオープンアクセスジャーナルの役割」

平成24年2月21日(火) 大阪市立大学 学術情報総合センター



講師の山崎孝史同センター副所長は、地理学の専攻、エルゼビア社の学術雑誌「Political Geography」の編集委員を務め、2010年にはOAジャーナル「UrbanScope」を立ち上げるなど、学術情報の発信者としても活躍されています。「UrbanScope」は、英訳した日本史・日本文学の論文およびアジアや都市研究に関する英文査読論文を収録したOAで、刊行後2年弱で6本の論文・記事に対して36ヶ国、244都市から1,700回のアクセス、2,600回のダウンロードがありました。講演では、御自身の編集経験や統計をもとに電子ジャーナルの構造を分析されるとともに「UrbanScope」を例に「人文社会系の国際発信」の有効な手段としてOAの活用と英語発信の重要性を訴えられました。



人文系の学術成果を英訳し、OA化することで流通範囲を広げる方法は面白いと思いました。日本の社会科学の国際的プレゼンスの低さの原因として、英語での発信が少なく国際流通にのらないことがあり、また、大手出版社へOAを搭載する場合はコストが圧倒的に高いことがネックとなるそうです。HPやサーバの管理、英訳のための学術翻訳者の発掘や養成などの活動をして、運営費は商業電子ジャーナル購読費の5%程度でおさま、しかも、アクセスもかなりあるとのことにお話に大きな期待を持ちました。このような論文を集めれば、機関リポジトリの価値も高まりますね。

レポーター: 中村(大阪市立大)



大阪大学附属図書館シンポジウム 学術情報のこれからを考える ～電子リソース・Open Access・機関リポジトリ～

平成24年2月21日(火) 大阪大学銀杏会館



学術情報流通の現状が抱える課題をふまえ、電子環境下の新しい図書館の役割と望ましい学術情報流通とは何かをテーマとして、国立情報学研究所安達部長・千葉大学竹内図書館長の講演、大阪大学附属図書館石井事務部長の報告とパネルディスカッションがありました。当日は、学内外の教員・学生・図書館員約80名の参加があり、学術情報のこれからと図書館の役割について考える機会となりました。



現在の学術情報流通が抱える課題を改めて認識することができたシンポジウムでした。また、課題に対する取り組みについても、海外の動向から千葉大学のアカデミック・リンク構想まで、事例を多く示していただくことで、より具体的なイメージを持つことができました。先生方の講演からは、「問題ではあるけれども、取り組みがいもある」という熱い思いを感じました。今回の内容を基に、今の切迫した問題にどう対応すべきか、自ら積極的に考えていく姿勢を持ちたいと思いました。

レポーター: 上村(大阪大)

信州共同リポジトリ（長野県）

生まれて！の信州共同リポジトリをご紹介します。
（本紙第8号2010.9の記事も参照ください）



常念岳



2012.1 JAIRO Cloudシステム講習会（NII主催）



2012.3操作研修会

ポータルサイト（仮）

[http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/
chuo/reposhinshu/src/](http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/chuo/reposhinshu/src/)

参加機関

松本大学
松本歯科大学
飯田女子短期大学
長野女子短期大学
松本短期大学
長野工業高等専門学校
長野県看護大学
佐久大学
信州豊南短期大学
清泉女学院大学・清泉女学院短期大学
長野大学
上田女子短期大学
（事務局）信州大学

募集

2012 ワーキンググループメンバー募集

新年度から、DRF内のワーキンググループ構成が新しくなります。

- 企画WG:** 全体の企画・立案・総括
- 集会WG:** 研修・イベントの企画・運営
- 国際WG:** 国際連携の推進、海外事例などの情報収集
- 技術WG:** 技術関連の課題解決
- 広報WG:** 広報企画、月刊DRFの編集・発行

DRF参加機関の皆さん、
ワーキンググループに参加して一緒に活動してみませんか？
自薦他薦問わず、やる気のある方歓迎です。
お問い合わせは、DRF事務局までお願いします。 js@lib.hokudai.ac.jp

次号 予告

【特集1】JAIRO Cloud始動!!

【特集2】平成24年度活動計画／新主査・副主査紹介

編集後記：新年度になりDRFも気分一新でスタートです。今年度もよろしくお願いします。

月刊DRFでは、みなさまからの便りをお待ちしています。 gekkandrf@gmail.com

月刊DRF第27号（通号29号）平成24年4月2日発行 デジタルリポジトリ連合

Q1. 担当課担当係と運営体制をおしえてください。

信州共同リポジトリは“長野県内の高等教育機関からの学術情報の発信”を目的として、信州大学が事務局となり、この事業に賛同した高等教育機関によって運営されています。各参加機関のリポジトリはそれぞれで運営する、いわゆる別居管理人型（広島大学さん＋HARPと同じタイプ）の地域共同リポジトリです。平成24年3月時点の参加機関は信州大学を含めて13機関*となりました。平成24年4月以降、準備の整った機関から順次公開を目指して目下作業中です。（*同一学校法人による大学・短大を一機関とみなす）

Q2. 導入システムは何ですか？

WEKOです。国立情報学研究所のJAIRO Cloud（共用リポジトリサービス）サービスで、平成22年度から共用リポジトリサービスの実証実験に参加しています。

Q3. 公開時の苦労話や秘蔵話、他機関と違った活動などをぜひ。

ご多聞にもれず、信州共同リポジトリも職員数の少ない参加機関が多いことに加え、広い県域の真ん中に山脈がそびえているため、講習会などで一堂に集まりがたいのがつらいところです。講習会は、テレビ会議システムを使うなどの工夫をしています。

共同リポジトリでこのコーナーに登場するのは初めて…？しかも、4月号発行時点では公開準備たけなわですが、引き続き、ご関係のみなさまのご支援をよろしくお願いします。3月13日の夜間、信州大学附属図書館HPのニュースに「4月から順次公開です」と掲載したところ、翌日にはカレント・アウェアネス・ポータルの記事になっていて、一同びっくり！！3月22日には信濃毎日新聞から取材があり、翌日の紙面で取り上げられました。

Q4. 信州共同リポジトリのチャームポイントは？（ここが気に入ってるといったところを）

地域共同リポジトリでありながら、参加機関それぞれが自分の顔（サイト）を持つ…それが、信州共同リポジトリです。参加機関が個別にJAIRO Cloudサービスに利用申込みをしています。（信州大学は従来どおりDSpaceで運用。リポジトリ新規構築ではないので…）。JAIRO Cloudサービスを利用することで、参加機関はサイトの構築が容易にでき、コンテンツの収集・登録に労力を集約することができます。また、ホスト機関である信州大学も、システム面の負担がなく、共同リポジトリ運営にかかる事務局の業務に集中できます。

Q5. DRFに期待することは何ですか？

共同リポジトリ構築にあたり、DRFが提供するさまざまな情報や講師派遣を活用しました。リポジトリの継続は人材がカギ。DRFから発信される情報と研修事業に期待しています。

